

2025年10月26日 南板橋教会 主日礼拝 降誕前第9主日 週報番号3487号

説教題：「**根気よく祈り続ける**」

聖書箇所：エフェソの信徒への手紙6章10-24節（359頁）

説教者：秀島行雄牧師 招詞：讚美歌93-1-9 交読詩編：詩編119編81-88節（135頁）

讚美歌：83/194（神さまはそのひとり子を）/497（この世のつとめ）/418（キリストのしもべたちよ）/27

「今週の聖句」〔どのような時にも、“霊”に助けられて祈り、願い求め、すべての聖なる者たちのために、絶えず目を覚まして根気よく祈り続けなさい。〕（エフェソ書6：18）

「牧師室の窓」 「秋進み紅き実顔出す花ミズキ元氣ですかと会話のひとつ時」

「どの様な時代なりしかルター押す宗教改革五百年前」

(1)皆様おはようございます。暑かった夏の日々も記憶から抜けて冬支度の日々となりました。今週の土曜日からは11月に入ります。地球が太陽の周囲を1年間要して回っている(公転と言いますが)そのことを実感できます。エフェソの信徒への手紙を皆様と共に読み始めましたのは、5月4日のゴールデンウィーク最中の礼拝でした。半年間が経過することになります。皆様のこの半年間の状況は如何でありましたでしょうか。

私自身のことを申しあげれば、6月に毎年健康健診の胃カメラ検査で思いもかけず腫瘍が発見されました。私も目の前に映し出された腫瘍の映像の一部始終をしっかりと見ていました。直ちに精密検査を受けて慌ただしく入院し、手術を受けました。ベッドの上では手術後の痛みとの戦い、特に深夜から明け方までの時間が長く感じられました。

…今日の聖書箇所の18節に書かれている〔(エフェソ書6：18) どのような時にも、“霊”に助けられて祈り…絶えず目を覚まして根気よく祈り続けなさい。〕というこの聖句は偽物ではない本当のことだと思いました。看護師さんたちが日中と夜間とで交代し、毎日入れ替わります。私は看護師さんたちの名前を覚え、名前で挨拶をしました。性別も年齢も異なり、趣味や関心事が異なります。会話をしつつ手術後の痛みを紛らわせました。ある看護師さんが株式投資に関心があり、利益を得る極意を教えて欲しいとの質問を受けました。私は答えました。それは難しいですが、簡単です、相手をよく知ることですと話しました。

聖書を読むのも、英語を学ぶのも同じです。1回学んだだけで、1回聞いただけで、1回読んだだけで、理解できることはありません。1回で分かった積もりになることは危険です。人間の耳や脳みそはその様な構造にはなってはいません。自分勝手にえり好みをしているに過ぎません。

繰り返し、繰り返し反復して、耳に頭に刻み付けるのです。申命記6章には〔(申命記6:5) あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。〕そして、7節には「繰り返し教え」と書かれています。野球でも剣道でも素振り百回、千回と言います。お茶の茶道、表千家・裏千家では、繰り返すことを、お稽古(けいこ)と教えられました。

信徒時代にある牧師から言われました。週報に書かれている来週の聖書箇所を少なくとも5回10回は読み、1週間の生活を組み立てなさい、そのことが君の生活を変える大きな原動力になる、と教えられました。ささやかな行動が大きな力になるのです。今日の聖書箇所には「根気よく祈り続けなさい」と書かれています。

(2)きょうの聖書箇所に入る前に、エフェソの信徒への手紙の仕組みをもう一度確認してみましょう。全部で6章あるエフェソ書のうち、1章～3章にはキリストとは何か、教会とは、聖霊とは、恵みとは何か、書かれています。それも目に見て分かるように記されています。

思い出してみましょう。3章18節19節には〔(エフェソ書3:18) …キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解し、(3:19)人の知識をはるかに超えるこの愛を知るようになり…〕とパウロは言っています。立体的に表現していますね。テント造り技術者ならではの表現で

す。そして、4章～6章には、クリスチャンがこの世の中でどの様に生きるべきかをその具体的な手法についてパウロは話しています。4章2節には〔(4:2)一切高ぶることなく、柔和で、寛容の心を持ちなさい。愛をもって互いに忍耐し〕、7節には〔(4:7)…わたしたち一人一人に、キリストの賜物のはかりに従って、恵みが与えられてい〕る、4章の後半には〔(26節)怒ることがあっても、罪を犯してはなりません〕、(28節)労苦して自分の手で正当な収入を得、困っている人々に分け与えるようにしなさい〕、(32節)互いに親切にし、憐れみの心で接し、神がキリストによってあなたがたを赦してくださったように、赦し合いなさい〕加えて、5章では、〔(5:2)愛によって歩みなさい／(5:4)感謝を表しなさい／(5:15)細かく気を配って歩みなさい／(5:17)無分別な者とならず、主の御心が何であるかを悟りなさい／(5:18)酒に酔いしれてはなりません〕アルコール中毒・依存症になってはならないのです。19節には〔(5:19)主に向かって心からほめ歌いなさい／20節(5:20)いつも…わたしたちの主イエス・キリストの名により、父である神に感謝しなさい。〕

5章の後半には「妻と夫」のことが書かれています。「互いに仕え合いなさい。愛しなさい。敬いなさい。」と勧めています。6章の前半には、子が親を「敬い」、親が子を「育て」る、奴隷と主人については「喜んで仕え」る「人を分け隔て」しないことが重要であることを記しています。

以上の様に、4章以下には、分かり易い言葉で、具体的な行動方法が書かれています。まさに、現代社会で言われている実務書・ハウツー物ですね。

…何故、具体的な実務書になったのでしょうか。その理由は、パウロがエフェソでの3年間にゼロからの伝道生活を過ごし、多くのクリスチャンを育んだ思い出の場所であったからです。その証拠が今日の聖書箇所最後の段落に書かれています。6章21節～24節です。小見出しに「結びの言葉」と書かれています。パウロは伝道旅行の同行者である(使徒20:4)ティキコをパウロの元からエフェソ教会に派遣しています。

(3) 扱って、今日の聖書箇所の6章10節には〔(6:10)最後に言う。…〕と書かれています。続けて〔(6:10)…主に依り頼み、その偉大な力によって強くなりなさい。〕11節～16節には「神の武具」のことが書かれています。何故、「神の武具」なのでしょう。その理由は「悪魔の策略に対抗して立つことができるように」なのです。

「悪魔の策略」とは何でしょうか。それは、4章17節以降に書かれています。「(4:17)愚かな考えに従って歩むこと」、「(4:18)無知と…心のかたくなさ」、「(4:19)放縦な生活…ふしだらな行い」、「(4:22)情欲に迷わされ、滅びに向かっている」、「(4:25)怒り…罪を犯す」、「(4:28)苦勞して自分の手で正当な収入を得ない、困っている人に分け与えない」、「(4:29)悪い言葉」、「(4:30)神の聖霊を悲しませる」、「(4:31)無慈悲、憤り、怒り、わめき、そしり…悪意」などなど。世の中には沢山の無数の「悪魔の策略」があります。これらをご覧になってお分かりの様に「悪魔の策略」とは、人間を内部から崩壊させる破壊させる、自滅させるように企てているのです。私たちが祈っている「主の祈り」の中に、「我らをこころみにあわせず、悪より救いだしたまえ」と言う箇所があります。

皆様もご存じと思いますが、約5百年前に起きた宗教改革で大きな役割を担った人にジャン・カルヴァンがいます。その著作に『ジュネーブ教会信仰問答』があります。全部で373の質問と答えが書かれています。その中で、問292番は「試みとはどんな意味か」との質問に対して、その答えは、「悪魔が私たちを襲うために用いる様々な策略やごまかしです。…私たちの意志は善よりも悪にふける傾向があるからです。」と示されています。今週の金曜日10月31日は宗教改革記念日です。『ジュネーブ教会信仰問答』や『ハイデルベルグ信仰問答』を読むことが大切です。

この2冊は私が信徒時代に40年程前の30歳代の頃に、ある教会で約2年間の読み合わせをしました。読后感想を話し合い、理解力を養うこととなります。2冊合計で1,120円を支払いが深い理解力をもたらします。まさに教育は投資です。私たちの南板橋教会では、この11月から年間で4回ある第5日曜日に行なわれる「読書と祈りの礼拝」では日本基督教団出版局発行の『信仰生活ガイド／信じる生き方』をテキストとして学びます。1回で僅かなページ数ですので、事前によく読んでおくことが大切です。本代(教会で負担をしていますが)本代を無駄にしない様に、その時の礼拝の時間を大切にいたしましょう。

(4)今日の聖書箇所(12節13節)に戻ります。〔(6:12)わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。(6:13)だから、邪悪な日によく抵抗し、すべてを成し遂げて、しっかりと立つことができるように、神の武具を身に着けなさい。〕

では、ここに書かれている「神の武具」とは何でしょうか。13節～17節を見てみましょう。14節の「真理の帯、正義の胸当て」、15節の「平和の福音を告げる…履物」これは履物を履いて歩く音が相手の戦意を失わせるからでしょう。16節「信仰の盾、それは、火の矢をことごとく消すことができる」と書かれています。恐らくは、盾が何らかの金属に覆われているか、水に浸された盾なのでしょう。17節「救いを兜としてかぶり、霊の剣、すなわち神の言葉を取る」。様々な武具が書かれており、驚くほどです。つまり、「神の武具」は1つ2つではなく沢山ありますよ。これらを単一ではなく、総合力として対処することが出来るとパウロは示しているのです。パウロがテント張り職人として培ってきた技術者魂がこの箇所でも如何なく発揮されています。パウロの情熱が伝わって参ります。…私事ですが、中学高校時代に剣道部に所属しました。武器は相手を倒す道具であると共に自分を鍛えます。また、武道の道具を大切に扱うことを学びました。日本のみならず、世界の各国には、それぞれの歴史の中で大切にされた武器や武具があります。壁画に描かれたり、美術品にもなっています。武器や武具は人間の精神の歴史でもあります。きょうの12節13節は味わい深い聖書箇所であります。

(5)そして、18節にはダメ押しとして、次の様に書かれています。〔(6:18)どのような時にも、“霊”に助けられて祈り、願い求め、すべての聖なる者たちのために、絶えず目を覚まして根気よく祈り続けなさい。〕皆様はこの18節をどの様に読まれるでしょうか。この18節の中で最も重要な言葉は最後に書かれている「祈り続けなさい」と言う言葉です。日本語の文章の表わし方は、最も重要な言葉、即ち、結論が文章の一番後ろに置かれてしまいます。英語やヨーロッパの言葉は結論を先に言うのです。日本語は意志を表わすには回りくどい言葉です。ですから、火事や緊急事態や戦いの時には先ず結論の言葉を先に発して対処しなければなりません。

扱って、この「祈り続けなさい」をどの様に行なうべきかがこの18節には何と記されているでしょうか。それは「どのような時にも」「絶えず」「根気よく」です。この3つの言葉を1つに混合する、ブレンドしますとどうなりますでしょうか。ヒントは時間軸を組み入れると、「日常生活の中で、そして、生涯にわたって、祈り続ける」こととなります。それは「希望を持ち続ける」と言い換えることが出来ます。

私はこれまでの生涯の中で、信徒時代も含めまして、人間には様々な外見や形態があることを見してきました。例えば、老若男女・国籍・人種・学歴・貧富・階級・階層等々の形態があります。併し、聖書はこれらの形態とは異なる状況での人間の存在があることを示しています。それは「どのような時にも」「絶えず」「根気よく」「祈り続け」ることです。聖書は私たちに勇気を与えようとしているのです。それがこの言葉、本日の聖書箇所(18節)です。しっかりと受け止めましょう。

〔(6:18)どのような時にも、“霊”に助けられて祈り、願い求め、すべての聖なる者たちのために、絶えず目を覚まして根気よく祈り続けなさい。〕「希望を持ち続けて」この言葉を大切に参りましょう。

・・・お祈りします。

イエス・キリストの主なる神様。私たちは収穫の秋を迎え、過ごしています。私たちが、人々が日々の食べ物を得て生活できますように祈ります。

神が創造されましたこの地球上に生きる一人一人に平安・平和・希望が与えられますように。

食べ物が乏しい人々に、災害や戦争の只中にある一人一人に慰めがありますように、お守りください。私たちに知恵と勇気をお与え下さい。

教会に連なる一人ひとりに、地域で生活している、働いている一人一人、主なる神の御恵みと平安がありますように。イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン